教育センターだより

令和８年９月　第144号

島根県教育センター
島根県教育センター浜田教育センター
https://www.shimane-ec.pref.shimane.lg.jp/

お品書き

P1 所長へのインタビュー　P2 新任研第Ⅲ回センター研修 三瓶宿泊研修　P3「単元構想シート」のご紹介・教育相談のご案内　P4 多様な子どもの主体的な学びを支える授業づくり・教育研究発表会 野口氏講演

梅木喜嗣 所長（R8年4月着任）にインタビューしました。



はじめに島根県教育センター所長としての思いを聞かせてください。

教育センターに赴任して以来、研修の準備や運営、教育相談対応など、指導主事の丁寧な姿勢に感心させられています。一方で、これまでの行政勤務で、県の施策や事業を学校現場にどう届けるかということが課題だと感じていました。

4月に県教育委員会の指導主事・社会教育主事を対象に話す機会があり、県教育委員会に勤務する我々指導主事の役割について、潮流を読み、味方につけて仲間と共に行動するシャチを例にして話しました。実践すべきは3点です。

1 シャチが群れと動きを同期させるように施策を現場の「願い」にシンクロさせる。【戦略的接続】

2 シャチが仲間同士独自のコールで交信するように、行政の言葉を現場に届く言葉にほぐす。【共鳴の翻訳】

3 シャチが環境に合わせ柔軟に泳ぐように、学校の状況に合わせた柔軟な対応。【しなやかな活用】

島根県教育委員会が一つのチームとなり、この3つを実践することで、現場の困難を突破する「心強い伴走者」となることを目指したいと思っています。

教育センターではどのような研修をめざしていますか？

令和4年の中央教育審議会答申において、「子供たちの学び（授業観・学習観）とともに教師自身の学び（研修観）を転換し、『新たな教師の学びの姿』（個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じた、『主体的・対話的で深い学び』）を実現。」とされました。教育センターでは研修の在り方を、学び手（教職員）を「主語」とし、主体的・対話的で深く学ぶ（探究する）研修に変えようと取り組んでいます。

例えば、中堅教諭等資質向上研修・専門性向上研修ではこれまでの実践を振り返り、中堅教諭等としての在り方を見いだすために、より対話型、探究型の研修に改善し、年間を通じて、自己課題の解決に向けた探究的な取組を実施しています。新任者研修においても、センター研修の度に「自己成長のマネジメント」研修を設定し、教員としての在り方を節目ごとにリフレクションをすることで、自ら学び続ける教職員としての土台の構築につなげています。

新任者研修で三瓶宿泊研修復活の目的は？

近年、県外出身者の割合も増えてきており、より、新任者同士の結びつきを強めること、コミュニケーション能力を高めることの重要性を感じています。そこで、協働的な学びを重視した「宿泊研修」を実施しました。

酷暑の中での研修となりましたが、研修を通しながら新任者が絆を深めていく姿が目に見えて分かりました。また、何よりも印象的だったのが、研修に取り組む真剣なまなざしと研修に取り組むバイタリティあふれる姿勢でした。学校に帰り、チームの一員として学校に活気をもたらす姿が期待できる研修となりました。

最後に学校へメッセージをお願いします。

最近、「コ・クリエーション（Co-Creation）」（共創：各部署の知恵を融合させて、よりよい成果物をつくる）という言葉に出合いました。教職員研修においては、各学校で行われる OJT 研修と教育センターが実施する Off-JT 研修とが連動し、学校現場で実践・普及されることでその意味は高まります。今後も教職員、学校、市町村教育委員会、そして県教育委員会が一つのチームとなり、充実した研修が進められるよう努めたいと考えています。ご協力をよろしくお願いします。

令和8年度　島根県新任教職員研修　第Ⅲ回　教育センター研修（三瓶宿泊研修）

集団宿泊生活や協働し課題を解決する活動を通じて、他者との連携・協働や集団づくりに関しての見識を深め、指導力の向上を図ることを目的として、国立三瓶青少年交流の家における2泊3日の宿泊研修を 12 年ぶりに実施しました。研修の様子をお伝えします。







〈野外炊飯〉

協調性や計画性を養うことを目的として、グループごとにアップルパイづくりを行いました。

〈SAP（Sanbe Adventure Program）〉

集団におけるよりよい人間関係づくりについて体験的に学ぶことを目的として、アクティビティを通じて仲間と共に楽しく学びながら、グループのあり方について考察しました。







〈生徒指導・教育相談〉

生徒指導・教育相談の意義を理解し、児童生徒理解を基盤とした個や集団にかかわる指導力や対応力などの向上を図ることを目的として、事例検討やロールプレイを行いました。









〈自己成長のマネジメント2〉

4月からの自分自身を振り返り、これからの課題設定や取組を考えました。また、同期の仲間と共有することで、新たな視点を得る受講者もいました。

〈受講者の感想〉

- 全く知らない者同士が互いを知ることはもちろん、顔見知り程度の関係性である人同士が、相談しあうことのできる関係にまで発展しうることが大きな意味を持つのではないかと感じました。二学期及び今後長く続く教員人生に向けての糧としたいと思いました。（中学校教諭）
- 今後も指導員同士はもちろん、教員とも連携・協同しながら舎生支援をしていきたいと考える。また、舎生に対しても意図的な人間関係作りや集団作りの機会を提供していきたいと考える。（寄宿舎指導員）
- こういった機会がないとなかなか同期でも他の校種の先生たちと関係を作ることができないので、新たな関係を作れて良かった。（事務職員）

「単元構想シート」のご紹介

単元構想で悩みはありませんか？企画・研修スタッフでは、子どもの実態に応じた授業を構想するときのポイントを焦点化し、単元構想シート（国語、社会、算数・数学、理科、外国語）をつくりました。ぜひ授業づくりに役立ててください！
感想や改善点をアンケートで教えていただくと嬉しいです。

『単元のゴールで○○ができるようになればよい』と思えるようになって、**安心**することができました。（協力校の声）

例えば社会科「問いでつなぐシート」

子どもの見取りを中心にしています。

教科の特性によりシートの内容を一部変えています。

すべての欄に書き込まなくても使えます。

出合いの問い	子どもに出合わせる社会
わたしたちはどんな時にどれくらいの水を使っているのだろう？	・水を使っている場面の写真やイラスト
学習問題に迫る問い	学習問題に迫る資料
そんなに大量の水はどこから来るのだろう？なぜなくならないのだろう？	・人間が１日に使用する水の平均量に市の人口をかけて出てくる水の量
学習問題（単元を貫く問い）	
飲み水はどこからどのように送られてくるのだろう？	
子どもの予想	予想の手がかりとなる資料
・水はダムから送られていると聞いたことがある。 ・ダムからの水をきれいにする仕組みがあると思う。 ・ダムの水はどこから来るのだろう？	・ダムの写真 ・浄水場の写真 ・森林や河川の写真、イラスト
学習問題を追究・解決する、事象を調べるための具体の問い①	調べる方法や資料
浄水場ではどのようにしてきれいな水をつくって、みんなの家に送っているのだろう？	・浄水場の見学

詳細は

島根県教育センター
研究成果物
単元構想シート

検索

教育相談のご案内

友だち関係がうまくいかなくて…

学校や園に行きづらくて…

子どもとどうかかわったらよいか…

発育・発達が気になって…

学校や家庭での、お子さまに関するさまざまな不安や悩み、ご心配な事はありませんか？
わたしたちが、ご一緒に考えさせていただきます。
どうぞお気軽に、ご連絡ください。
お申し込みは、下記の電話番号で受け付けています。

島根県教育センター

松江市内中原町 255-1
☎0852-22-5876
相談日：毎週火曜日～金曜日
時　間：9:00～17:00

島根県教育センター 浜田教育センター

浜田市長沢町 1550-1
☎0855-23-6784
相談日：毎週月曜日～金曜日
＊水曜日は午後のみ
時　間：9:30～17:00

“こころ・発達”教育相談室

出雲市下古志町 1574-4
☎0800-200-1556
【フリーダイヤル】
相談日：毎週水・木曜日
時　間：9:00～16:50

○**幼児から高校生年代まで**の子どもと保護者が対象です。
　継続的に相談に通っていただいています。
○保護者の了解のもと、来所児童生徒に関する**教職員対象の相談（コンサルテーション）**もおこなっています。
○相談は**無料**です。相談内容についての**秘密**は守ります。



ホームページはこちら→

子ども・保護者・教職員の教育や子育てに関する悩み全般をお受けします。

島根県教育センター　教育相談　検索

ただただ学校のお役に立ちたい！これを読んでいる「あなた」のための浜田教育センターです



多様な子どもの主体的な学びを支える授業づくり



試作版

近年、不登校児童生徒の急増をはじめ、子どもたちの背景や学びのニーズが多様化する中、すべての子どもの学習権を保障することに困難さを感じられていませんか？多様な子どもの主体的な学びを促すには、子ども自身が自分に合った「学び方」を選択できる授業設計が必要です。そのため、子どもが安心して選択し自走できるよう、教師がもっておきたいのが「意識のちょい足し」です。この「意識のちょい足し」を通して、教師が「教える人」から「伴走者」へと変わることで、子ども自身が自分に合った「学び方」を見つけ、自ら学んでいく姿を支えられると考えています。



今年度は、先生方の日々の授業づくりの参考となるような「実践ガイド」をまとめる予定です。「ちょい足し」を合言葉に、先生方が負担なく授業改善進められる構成を目指しています。授業の導入・展開・終末ごとのちょっとしたポイントや、学び方の選択肢のつくり方など、日々の授業に無理なく取り入れられる工夫やヒントをぎゅっと詰め込んで制作を進めています。現場の先生方に寄り添う小さなアイデア集としてお届けしますので、ぜひ楽しみにお待ちください！

教育研究発表会
R8.6.4(木)

野口 晃菜 氏 に講演をしていただきました

「多様性を包摂する学校とは －次期学習指導要領を踏まえて－」

次期学習指導要領の方向性の一つ、多様性を包摂する学校づくりについて、実践例も含めたお話でした。ご視聴いただいた多くの皆さま、ありがとうございました。感想を一部ご紹介します。



児童生徒の多様化や不登校・特別支援ニーズの増加が進む中、単に支援を「付け足す」のではなく、学校の構造や「あたりまえ」そのものをどう見直すべきかについて改めて考えさせられた。

「Nothing about us without us」という言葉が特に印象に残った。子どもたちの声を聞かずに、大人だけで「良かれ」と思って決めていることが多いのではないかと、自身の実践を振り返る機会となった。

支援が必要な子、不必要な子は存在せず、全員が「●●のときに支援が必要な子」という言葉。最近校内で話題となる児童の様子に対する答えをいただいた感じがしました。子どもたちに対する考え方、見方を変えたいと考えていたので、職員に伝えていきたいと思います。